6月27日(月)

高く引き上げて下さる神

聖書朗読 イザヤ 53:3~10

正しい者は七たび倒れても、また起き上がるからだ。悪者つまずいて滅びる。

箴言 24:16

「正しい人を押さえつけておくことはできない」という格言があります。聖書にも似たようなことが書かれています。たとえ私たちがつまずこうと、必ず神様はまた起きあがられるよう、助けて下さいます。

(旧約聖書の) ヨセフを例にとると分かりやすいと思います。彼は兄弟から憎まれ、虐げられました。そして穴へ投げ込まれ、奴隷として売られ、エジプトへと連れて行かれました(創世記37:23~28)。しかし、その後神様はヨセフを引き上げられ『エジプト全土の統治者とされたのです』(創世記45:8)。

イエス様が体験なさったことは、「正しい人を押さえつけておくことはできない」ということの、最も良い例と言えるでしょう。イエス様は散々悪口を言われ、肉体的にも虐げられ、悲惨な方法で処刑されました。それは大変苦痛を伴うものでした(イザヤ53:3~10, ピリピ2:8)。しかし、神様は一人子であるイエス様を蘇らせ、主の御名とその座するところを高められました(ピリピ2:9, エペソ1:20~23)。

クリスチャンとして生きるなら、人生で辛い時があっても、必ず神様が導いて下さいます。神の子である私たちを、倒せる者はいないのです。

キリストの愛が私たちの生活に入ると
気持ち持ちあげられ、気高くなるでしょう
それはクリスチャンのみが知ることで

—————ハワード・ギネス

讃美歌 162

祈り 父よ。人生において困難な時にも、御名をあげ、あなたに頼れるようお助け下さい。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

エドワード・ロビンソン
テキサス州 テレル

今日のカ

2016年6月27日~7月3日

翻訳 伊藤若菜

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月28日(火)

神様からの慰めは本当にある

聖書朗読 イザヤ 61:1～11

神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。

イザヤ 61:1

私の主人が天に召されて少ししてから「もう大丈夫ですか」と尋ねてくれた人がいました。もし誰かを亡くしたことがある人なら分かるでしょう。そのことから回復することは難しいです。でも、亡くなった人達のことを色々な方法で身近に感じることは出来ます。

しかし、神様はこのような大変な時にも、慰めを与えて下さることを約束しておられます。私はそれを教会員からの祈り、電話により感じました。自宅が静寂で満たされている時にさえも、慰めを感じました。もちろん涙した日もありましたが、そんな時は詩篇の聖句を声に出して読みました。神様が私に直接話しかけて下さっているような気がしました。

時間はかかりましたが、主の働きによる慰めを通し、前へ進むことが出来ました。また、全く予想していなかったことですが、神様は私の看護資格をお使いになり、ホスピスで働く機会を与えて下さいました。『死の陰の谷を歩く』ことに近づいている家族に少しでも力になればと思います。今度は私が人々に慰めを与える番になりました。主人が召天したことを変えることは出来ません。しかし、この試練から抜け出すことは出来ました。確かに神様は慰めを与えて下さいます。

讃美歌 512

祈り 父よ。あなたの慰めは私たちの希望です。あなたの犠牲が私たちの救いです。あなたにある平安に私たちは励まされます。ありがとうございます。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

ダレン・ウエスト
テキサス州 ラボック

6月29日(水)

わたしは、いつまでも怒ってはいない

聖書朗読 エレミヤ 3:11～18

行って、のことばを北のほうに呼ばわって言え。

背信の女イスラエル。帰れ。——主の御告げ——わたしはあなたがたをしらない。わたしは恵み深いから。——主の御告げ——わたしは、いつまでも怒ってはいない。
エレミヤ 3:12

ある友人がとても大きな罪を犯してしまった時がありました。私はそのことについて主人と話し合い、どれだけガッカリしたか話しました。私は思わず「罪って本当にイヤ!」と言いました。すると主人は苦笑いして「元々罪は忌み嫌われるべきことだよ」と言いました。

その時私はふと気づかされました。私の「友人に対する憤り」も神はお喜びにはならない、ということです。私は、私の間違えた態度を赦して下さいよう、またもつと自分自身をコントロールし、愛と赦しを持てるよう祈りました。祈りと私の友達に対する愛は、まさに神様からの賜物ですから、その時神様が私に働いて下さったのだと確信しています。

神様は素晴らしいお方です。私たちには神様がいてくださり、罪を赦して頂けるとは、何とありがたいことでしょう。

『もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』(Iヨハネ 1:9)

讃美歌 239

祈り 天におられる父よ。あなたのような寛大な心を持ち、人々に接することが出来ますように。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

ベティ・ベンダー
テネシー州 コロンビア

6月30日(木)

耳を傾ける

聖書朗読 エレミヤ 26:1~24

彼らが見ていても見えず、聞いていても悟らないからです。

ルカ 8:10

(今日の聖書朗読箇所の中で) エレミヤは、耳を良く傾けない人々に対し預言を伝えたところ、自分の命が失われるかもしれないという窮地に立たされました。その時エレミヤは、神の裁きについての預言を語っていました。そして次のような「裁きを免れる道」も示しました。『さあ、今、あなたがたの行ないとわざを改め、あなたがたの神、主の御声に聞き従いなさい。そうすれば、主も、あなたがたに語ったわざわいを思い直されるでしょう。』(エレミヤ 26:13)

「恐らく、彼らは聞くでしょう」という御言葉は、昔も今も同じように当てはまることではないでしょうか。神様は私たちに聖書を読み、そこに書かれた素晴らしい計画について知って欲しいと思われています。

両親は必ずしも子どもの言うことを聞いているとは限りません。また、その逆も然りです。特に十代の頃は難しいでしょう。私たちはみな、十分な注意を払わなかったがために嫌な思いをしたことがあるのではないのでしょうか。

人との関係は良いコミュニケーションにより、より良い関係となります。コミュニケーションで特に大切なのは良く聞く力ではないでしょうか。他者が経験した出来事、他者の感情、他者が持っているかもしれない傷付いた心を理解するようにしましょう。また、愛と受け容れる気持ちを備え、耳を傾けましょう。勝利や喜びを聞き、素直な気持ちで耳を傾けましょう。つまり、イエス様の様に他者に耳を傾けることが大切です。

耳の傾け方を学べば、神様との関係、また他の人々との関係も、より良きものとなるでしょう。

讃美歌 121

祈り 父よ。御言葉により一層耳を傾けられるよう助けて下さい。あなたの愛を通して、コミュニケーションが取れますように。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

マーク・マクインタ

テネシー州 ナッシュビル

7月1日(金)

与えることは神様の喜びです

聖書朗読 エレミヤ 29:11~14

主よ。あなたがなさった奇しいわざと、私たちへの御計りは、数も知れず、あなたに並ぶ者はありません。 詩篇 40:5

「この部屋の何処かに、5ドル札が隠してあります。これは発見出来た人の物になります」。それを聞いた、私たちのユース・グループの青年たちは、クッションの下、本の中、箱の下など思いつく限りの場所を探しました。私が自分のスポンのポケットから5ドル札を取り出した時、皆はとても不満そうな顔をしました。「そんな所にあると思わないよ」と。しかし、誰も私に聞こうとしなかったのです。

私たちは神様とゲームをしている訳ではありません。私たちが探し求めるのは御国ですが、それは求めれば与えられるものです。隠されているものではありません。「神様は私たちが必要とするものを喜んで与えて下さる」とイエス様は教えておられます。ですから、私たちにとって本当に必要なのは「神様に求めること」なのです。私たちにとって大切なことは、熱心に神様に求めることであって、神様に聞くことです。自分たち自身の力でなんとか御国に入ろうと頑張る必要はないのです。私たちが祝福された人生を歩むために、神様に祈り、神様に聞く必要があるということを、忘れないようにしたいものです。

讃美歌 291

祈り 父よ。日々あなたに従いたいと思っています。もっと近づけるよう、助けて下さい。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

デービッド・レムリー

カリフォルニア州 マリブ

7月2日(土)

散 々

聖書朗読 エレミヤ 50:4~7, 33~34

彼らを贖う方は強く、その名は万軍の主。主は、確かに彼らの訴えを支持し、この国をいこわせるが、バビロンの住民を震え上がらせる。 エレミヤ 50:34

旧約聖書の時代、神様の民は捕囚や他国との戦争にたくさんの時間を費やしました。それらにまつわる聖書箇所を読むと、多くの場合彼らは神様に信頼を置いていなかったことが分かります。今日の聖書朗読箇所では、神様の民は(人間的な視点では)解放される見込みが殆どないような困難な状況の中にいます。

もし、解放されることがなければ、イスラエル人とユダの人々はどうやって家へ帰ることが出来たでしょうか。答えは「主こそ救い主である」という事実にあります。神様はその民を守られ、元の土地へ帰されることを約束しました。またそれと同時に神様の民を虐げた人々に対する処罰もなさいました。

今日のクリスチャンも似たような約束をされています。パウロはテサロニケで、虐げる人々が罰される時が来ると書いています(Ⅱテサロニケ1:6~10)。私たちにあって大切なことは、忍耐強くあること、また私たちが助け導いてくださる神様に對し私たちが心を開くことです。

イエス様は、弟子たちに三つのことを約束されました。

恐れることは何もない、ということ。

いつでも祝福がある、ということ。

そして、(私たちの地上人生には)必ず困難もある、ということ。

——F・R・モルトビー

讃美歌 298

祈り 親愛なる神様、あなたのことを良く言わない人々と接する時、忍耐強く居られるよう助けて下さい。あなたの愛をどんな状況でも示せるように助けて下さい。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

スティーブ・コーデル

アラバマ州 ハンスビル

7月3日(日)

そして彼らはわたしが主であることを知る

聖書朗読 エゼキエル 33:1~16

わたしは決して悪者の死を喜ばない。

エゼキエル 33:11

神様は、誰一人滅びることを望んでおられません。皆が悔い改めることを望んでおられるのです。不可知論者や無神論者が真理をいくら拒もうとも、「神様がおられる(神様が存在する)」という事実は決して変わりません。そして、神様は不可知論者と無神論者を含む人々全員が救われることを望んでおられるのです。たとえ、神様の愛が拒絶されても、その愛がなくなることはないのです。何と寛大な愛なのでしょう。

このような神様の愛を、私たちはどのように実生活で実践していくことが出来るでしょうか。私個人が実践していて、実用的だと思うのはこの方法です。あなたの周りにいる人々をクリスチャンになる可能性のある人々だと考えます。例えば、自然災害が起こった時です。私は神様を非難せず、ただ災害により影響を受けた人々のために祈ります。物理的な被害を受けた人々のために祈り、さらに聖霊の働きにより、信仰が生まれるよう祈ります。「彼らは、わたしが主であることを知るであろう」という表現(またはそれと同じ意味の表現)がエゼキエル書には30回以上書かれています。私たちは誰の為にでも祈れるのです。例えば、政府の要人や、集まっている人々や、お葬式に参列している人々などです。さあ祈りましょう!

讃美歌 312

祈り 彼らが、あなたが本当の神だと知るように祈ります。

御子イエス様のお名前によりお祈り致します。アーメン。

ボブ・マイズ

テキサス州 ラボック